### matchblackip

指定したアドレスグループを用いて入力レコードをフィルタリングします。

#### 構文

matchblackip [invert=BOOL] [verify=BOOL] fields=TARGET\_FIELD guid=BLACKLIST\_GUID

必須パラメータ

**guid=BLACKLIST\_GUID**

アドレスグループのGUID識別子

**fields=TARGET\_FIELD**

カンマ（,）区切りの対象フィールドリスト

オプションパラメータ

**invert=BOOL**

検索結果の出力形式（デフォルト: f）

* t: アドレスグループに対象フィールド値が含まれていない場合に出力
* f: アドレスグループに対象フィールド値が含まれている場合に出力

**verify=BOOL**

クエリパース段階でアドレスグループオブジェクトの有効性を検証するかどうか（デフォルト: t）

* t: アドレスグループオブジェクトの有効性を検証
* f: アドレスグループオブジェクトの有効性を検証しない※このオプションは、システムがポリシー同期段階で構文エラーを発生させないように設定します。

#### 説明

matchblackipコマンドは、指定したアドレスグループを用いて入力レコードをフィルタリングします。対象フィールドのいずれかが指定したアドレスグループに含まれている場合、そのレコードを出力します。invertオプションが有効な場合は、対象フィールドのいずれもアドレスグループに含まれていない場合のみ出力します。

コマンド実行後に出力されるフィールドは、以下の表をご参照ください。

**出力フィールド**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| フィールド | 型 | 説明 |
| blackip\_guid | 文字列 | アドレスグループGUID識別子 |
| blackip\_name | 文字列 | アドレスグループ名 |
| blackip\_field | 文字列 | ブラックIP検出フィールド名 |
| blackip\_invert | ブール値 | invertオプションの値 |